

園の周りの畑でもみかんが色づき始め、秋の深まりを感じるようになりました。収穫期を迎え、各ご家庭ともお忙しい毎日をお過ごしのことと思います。先日の運動会には、本当にたくさんの方々にご来場頂きまして、ありがとうございました。打ち上げの席や連絡帳等でも、たくさんのご感想を聞かせて頂きましたが、当園にとっての運動会(行事)の在り方や、考え方、進め方等を本当に多くのみなさんにご理解頂いていること、また賛同して下さっていることがわかり、ありがたく、そしてうれしく思いました。

日頃から、子どもたちが体を動かすこと自体を楽しみ、真剣なまなざしで「出来るようになりたい!」と自ら意欲的に取り組んでおり、失敗しても何度も挑戦しようとする姿や、上の子たちへの憧れ、達成した時の満足げな笑顔、友だちのことを一生懸命応援する姿などを見てきていたので、運動会当日も子どもたちの躍動する姿が眩しいくらいに輝いて見え、私自身とても感動しました。運動会が終わってからも、より高い竹馬に挑戦したり、缶ぼっくりから高下駄、リレー、竹のぼりなどなど、上の子がやっていたことを下の子たちが挑戦するなど、ますます運動あそびが盛んになっていることから、子どもたちにとっても楽しく、意味のある行事だったのだと思います。

他園の運動会や各種イベント等での発表などを見る機会が度々ありますが、「この園は、この取り組みを通して、いったい何を目指し、どんな意味を見出しているんだろう?」と疑問に思うことも多々あり、その度にわが園の取り組みは間違っていないと思えるし誇れるものだと感じています。

運動会ひとつとっても、今の日本は二極化しているような気がしています。以前から根強く残っていますが、鼓笛隊やマーチング、組体操、ダンス等のお遊戯的な物も含め、「全体がビシッとまとまることを美とする価値観」(見た目重視)のものと、「競争はしない、無理な練習もさせない、親子でふれあい、みんなで楽しむこと」を目的とするもの。

全体がビシッと・・・の方は、初めに形ありきで、出来て当たり前なので、できるまでひたすら繰り返し練習です。まるで訓練です。勉強であれば、習ったものを覚えて、それを自分のものにするためにひたすら計算ドリルや漢字ドリルをするといった勉強方法に似ていると思います。こうしたことも、ある程度は必要だと思いますが、それだけでは、自分で考えて、工夫して、試して・・・といった創造的なものは生まれにくいように感じます。

とって、「単に楽しめればいい」というのも、楽しいのはもちろんいいことですが、やはり、それだけでは、学びとして足りないと思います。

人として成長していくうえで必要な真の学びというのは、暗記や計算だけでなく、「深く考え、推測したり、試したりしながら、新たなものを創造していく力」だと思います。そして、そこには自分のことだけでなく、「他人を思いやる心」を持ってほしいですね。そのためには、自らの意志で意欲的に取り組むことはもちろん、様々な場面で考えたり、試したり、工夫したり、仲間と話し合ったり・・・といったことが必要です。「用意された一つの答え」に向かうのではなく、「さまざまな答え」があることを楽しみながら探っていく、それが真の学びではないかと思います。単に「できるようになること」だけが目的にならないように、例えば、リレーなどの取り組みを通して、足の速い子、遅い子いるなかで、どうやったら自分のチームを勝利に導くことができるのか、弱者切り捨てではなく、みんなで工夫し、力をあわせて、みんなの喜びに繋がるための努力をする。そんな取り組みが必要になってくると思うのです。

今後も、行事が日常の保育と切り離されたものにならないように、日常の保育においても、一つ一つ、その取り組みが子どもたちのどんな力に結びついていくのか見極めながら考えていきたいと思っています。